



たもんじ 交流農園

2020年2月号

便い Vol.23



水口アドバイザー「年間作付け計画・土作りの重要性」講演!



1月26日(日)10:30と14:30の2回、水口アドバイザーにより「年間作付け計画・土作りの重要性」についてお話頂き、延12名のご参加を頂きました。

【土づくりの重要性】4~5月に苗を植えるとする、土づくりはその前1月から3月の間にやっておかなければいけない大切な作業。土作りは先ずは土をほぐすところからだが、手ぐわ(平ぐわ)より備中鍬(3本鍬)の方がよい。

【石灰を撒く意味】作物を作っていくとだんだん土壌が酸性になっていくので、石灰を使って戻してあげる必要がある。苦土石灰の苦土とはマグネシウムでありやりすぎに注意。年間2回くらいならOK。あとは普通の石灰で十分。スギナの子はつくして、除草剤ではなかなか消えないが、石灰を撒けばいっぺんに消える。重要なのはそういう作業は種まきをするときにもやっても手遅れだということ。肥料も10日くらい前にしておく。

【たい肥の意味】たい肥の栄養分とはたいしたことはなく、何のためにやるかという、土のスポンジの役割をさせるため。たい肥をつくる場合、時々切り返しという作業をして中に空気を入れてやる必要がある。たい肥の中に、病気にかかった特にウイルス性のものは入れてはいけない。

【年間計画には土を休ませる期間を盛り込む】春に撒ける野菜は、カブ・ニンジン・ショウガ・葉ネギ・茎ブロッコリー・小松菜・ほうれん草・みつ葉・ターツァイ・チンゲン菜など。自分が何を作るか年間の計画をつくるのが大事。重要なのはキチキチに詰めてつくるのではなく、土を休ませて空気を入れる期間を開けること。

水口アドバイザー有難うございました(末林記)。※尚、当日の資料等ご希望の方は小川まで



うちの拙じまん 第17回 高尾一枝さん

高尾です。桜の直ぐ横の区画を借りています。実家の母親が小さい庭にいろいろな野菜を育てていて、特に夏場は帰省すると、その場で収穫した野菜を山ほど持たせてくれました。今は施設に入ってしまった、母の作った野菜は食べれませんが、私が土いじりが好きなのは、母親の影響が大きいのかも知れません。そうは言っても、野菜作りは素人なので、一年目は耕作チームで経験をさせて貰い、有機無農薬栽培とは何ぞやを勉強して、二年目に決心をして一区画を借りる事にしました。もともと、農園を通して高齢の人たちの居場所作りや地域の人たちと交流を目的として、借りようと思っていました。近隣の人



や農園を覗いている人を見かけると声を掛けたり心掛けていましたが、なかなか難しいですね。でも、秋に職場の障害者グループの人たちが、収穫や種まきの体験に来てくれて、今でも「また行きたい」と言ってくれているのを聞くと、自分の胸に暖かい物を感じ、『春に向けてまた頑張ろう!』と力をもらった気持ちになります。こんな貴重な体験をさせてくれたてらたま協議会さん、ありがとう!! きっかけを作ってくれた牛久さん、ありがとう!! ございます(嬉)

2/1(土)2(日)福島県は大玉村に行ってきました!!

大玉村は福島県の真ん中あたり、安達太良山のふもとにあります。大玉村は大山村と玉井村（たまのいむら）が合併された村で、それだけでも「寺島・玉ノ井」との縁を感じます。その大玉村のまちおこしとして藍の栽培を通して地元の農家さん達と一緒に活動しているのが「歓藍社」です。昨年秋、地方の農村と「たもんじ交流農園」とがつながることで、化学反応のように何か生まれるのではないかと期待を込めて「藝術耕作所」というプロジェクトが始まりました。



その活動主体の「ファンタジアファンタジア（ファンファン）」のメンバーと「てらたま」のメンバー10名が2月1日(土)～2日(日)に大玉村に訪問するツアーを行いました。



村の藍窯で藍染めをし、夜には薪ストーブの有る古い民家で、鹿肉や地鶏に村で採れた野菜など、歓藍社の人達の温かいおもてなしを受けての懇親会。皆さんの前向きな行動と屈託のない笑顔が印象的で、次はそんな大玉村の歓藍社の方々に「たもんじ交流農園」にお招きしたいと強く感じました。「農」を通じた「人と人を掛け合わせた交流」が始まる、そんな予感がして、それこそが交流農園が目指す姿なのではないかと感じた旅でした。大玉村のキャッチコピーは「大いなる田舎」だそうです。すみだは「大いなる下町」を目指そうではないですか！（牛久記）

てらたま協議会「農園チーム」のメンバーを募集します。

現在てらたま協議会の区画は2畝(区画でいえば4区画)あり、昨年までは何名かの方でお世話頂いていたのですが、みなさま各ご家庭の事情でなかなかてらたま協議会区画までは手が回らない状態です。そこでこの区画にイベント用の寺島ナス、じゃがいも、らっかせい等を育てることにお手伝いして頂くメンバーを募集いたします。勿論てらたま協議会のスペースなので、使用料を頂くものではありませんし、苗や種、農園資材もてらたま協議会持ちです。そう考えると、自分で区画を借りるよりむしろ楽に野菜づくりを楽しめるのではないかとこのふうにも思えます。よね。はじめて野菜づくりをやる方にとってもチームでやるので、いろいろ経験できるということもあるかもしれません。ご興味あるお友達等にもお話頂けませんか。よろしくお願ひいたします。



ブドウの樹がやってきました。

農園仕上げるぞワークのスケジュール計画(天候・人員の都合により変更あり)

最後のひと踏ん張りです。ご協力を頂きたく宜しくお願いします。(でも無理せず楽しくやる！が基本中の基本！です) ●2/22(土) ユンボ、ダンプレンタルしての交流広場掘削路盤用の碎石搬入、●2/23(日)通路整地転圧舗装(作業場にて大工が門柱加工)、●2/29(土)花壇見切り(重機レンタル予備日)、●3/1(日)門柱建て方(大工+3人手伝い必要)交流広場花壇見切り、●3/7(土)交流広場花壇見切り 路盤整備、●3/8(日)交流広場花壇見切り 路盤整備、●3/14(土)交流広場路盤整備、●3/15(日)交流広場舗装 ぶどう棚建て(大工+2人手伝い必要)、●3/21(土)交流広場舗装、●3/22(日)交流広場舗装 仕上げ、●3/28(土)開園式の準備設営

3/8(日)水口アドバイザー来園、10:00～16:00

3/29(日)「たもんじ交流農園」オープニングセレモニー&ピザ焼きパーティ

3年目を迎えるたもんじ交流農園の完成祝賀パーティ。11:00～14:00。参加費用:2000円/人(食事・飲み物付き)ただし、農園会員2名様までは、無料ご招待。



たもんじ交流農園便り
No.23-般 2020.2.17 発行
題字 田村風来門
編集 末林和之

てらたま協議会 (NPO 法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)

<https://www.facebook.com/teratama/>
問い合わせ先 小川 剛 (080-3421-3115)

セブン-イレブン記念財団

